

レスポンス



新たな特異点にレイシフトした
マスター。しかし、ともにレイシフトした
マ●ユ、コ●デー（キヤスター）
が傍にいない。通信も繋がらず、仕方なく一人
で探索中に隙をつかれ、男に拘束
された。



男は鼻息荒く、マスターの
胸を露出させるとその胸を
わしづかんだ。
呻くマスターを無視し、男の
手はスカートをめくり上げ。
ストッキングを破り、下着を
剥ぎ取った。
絶望の表情を見せる少女を
しり目に容赦なく、男は
白身の肉棒にゴムを装着し、
突き刺した。



男はニタニタと楽しそうに
「手持ちのゴムがなくなるまでに
満足させられなかったら中出し
だぞ。気張ってマシコ締めろ」
マスターは悔しそうに歯を
噛みしめた。



何時間たったのか？
マスタ―は子宮に
ニ回精液を注がれていた。
マスタ―はすでに熱に
うかさねたように蕩けた
表情になり、夢中で肉棒を
貪っている。



男は既に十回前後射精を
しているはずだが、衰えた
様子はなく、余裕が伺えた。
男は人間なのか？それとも…
しかし、マスターの頭には
力●デアの、大義名分は消し飛び。
ただ胎内に熱いモノを注がれる
喜びを求めれば、かきだつた。
彼女が救出されたところでも
可能性は低いなマスター…に戻る



そして、男は本来の目的を果たす。
マスターの令呪に魔術で介入し、
彼女と契約している英霊達的能力
を著しく低下させると言う細工。
召喚も男の意のままに……。
つまり、ただの非力な凡人でも
好きなサー●アントを好きなよう
蹂躪できるのだ。
これほど楽しいことはない。と嗤う。
今頃、他の仲間たちがマスターと
共にレイシフトしたサー●アントと
遊んでいるころだろう。



レイシフトに成功したはずが、
傍にはマスターもマ●ユもない。
コ●デーはしばらく辺りを調査。
何の変哲もない観光地のビル群に
思える。敵の気配も感じない。
しばらくすると全身の力が落ちる
ような感覚を覚える。
零基の不調。敵の何かの工作か。と
辺りを警戒するが、気付けば男達に
に囲まれ、抵抗も空しく拘束される。
おかしい。コ●デーは自身の異常に
気付く。今の自分は生きていた時の、本当に
ただの少女程度の力しかなかった。



コ●デーはビーチにある海の家に運び込まれた。
ニヤニヤと気味の悪い笑みを浮かべる男達。
両手はいつもならたやすく引きちぎれるような
ガムテープでひとまとめに。そして水着を乱暴に
奪われる。顔を真っ赤にするコ●デーのマスコを奥まで
見えるよう広げテープで固定し、最後の準備。と
ばかりにペニスを取り出した。



数時間後。
そこには全身が精液塗れ。下品な落書き塗れ。

アナルにはローターの線を垂れさがらせた。
コ●デルがいた。
好き勝手に集団に犯された彼女は壊れたように
笑い続けている。

おめめ落書き

エッチ
大女子も♡

タネツハ
ゴロ

ごじやうに
使った

マスタ
さんへ♡
ガバガバに
しては
マ●コ
お出し
コ●ンなさい♡

恥ずかしバイブにされ、
アナルに男のイチモツを
秘所に男のイチモツを
突っ込まれると勢いよく愛液
を吹き出した。男はオレのチンコ
その様子に男はオレのチンコ
気持ちはいいんだねと
話をしかけられるがマ●ユは
首を振る。しかし、後ろから
突いてくる男に挿入前に
散々指で解されたマンコは
男のモノによく絡みつく。





レイシフト後、マ●ユが
立っっていたのはアイドルの
ライブステージ裏だった。
以前、聖杯を回収するため
他のサー●アントと共に
アイドル活動を行っていたため
覚えがあつた。マシユは
単騎での探索を試みた。
しばらくするとステータスの
著しい低下が見られ、焦る彼女
は背後から男に確保される。
そしてそのままステージに
連れ出される。気付けば客席は
満員。咄然としていると服を取られ
大勢の前で無理やり性行為が
はじまり……今にいたる。

満員の観客の前で
マ●ユは何度も
中出しをされ、受け
止めきれずに零れる。
足下には精液混じりの
潮の水溜りが出来て
客席は大いに盛り上
歓声が上がる。ジ
会場がスターズの
声でマスターの名を
声は容易にかき消さ
れた。



マスターと同行した仲間と連絡が取れず、混乱の最中のカル●ア。
原因不明のステータス低下も起こり対策に四苦八苦する頭脳班。
そんな混乱の中、サー●アントが数基姿を消してもすぐに気付く
者はいなかった。
その内の一基がアル●リア。まだ半人前の少女騎士だった。



突然どこかに召喚され、アル●リアは状況を把握できぬまま男に囲まれ、装備を剥がれ、訳も分からぬまま秘所に挿入された。何をやるっ！無礼者！と叫びながら抵抗するも、か弱い少女の力では効果はない。下から突き上げられ、周囲を男の欲望に囲まれ、無垢な身体を汚され続ける。



子宮に散々精液を注がれ、飲み切れずに溢れ出る。口に向かって射精され、青臭い味を覚えさせられる。

与えられる快感に夢中になり、蕩け切った顔には王の風格はない。

王



アル●リアと同時期に
姿を消したもう一基。
源頼●だった。
彼女●は急激に下がった
ステータスにもめげず
召喚先で襲い掛かって
きた男にしばらく抵抗
していたが、最終的には
四つん這いになり、拘束
された。
この間に、拘束

屈辱的な姿にされ、もがくも無駄だった。早くも母があの子を見つけて……！と悔しく顔を歪ませる。男達は頼●の装備をはぎ取る。男の内、特に肥満の中年男が頼●の腔に自身のイチモツを挿入する。中年は嬉しそうに腰を振りながら、頼●の尻を強く叩き、もう片手で持った鞭で尻を叩く。中年男は日本史では源頼●のフアンであり本当は男ではなく女である。と知ってからずつと頼んでもないのに教えてきた。頼●はどうやってこの状況を脱するのか。を必死に考える。そうして確実に感じる快楽をどうにかやり過ごそうとしていた。



数時間後。
中年男の粘度の高い、量の
多い精液を抜かず、何度
も注がれ、滝のように零れ
落ちている。

陥没していた乳首は飛び
出し、ピアスを着けられ、
鼻にも同様のピアスを着
けられ、間抜け面で快楽を
味わっていった。それでも
か細くマスターを呼んで
は辺りを探していた。







お用者様

エッチ
大女子もの

タネツハ
ゴロー

ゴロー

ゴロー

マスター
使いきいて
ガバガバに
コメンなさい











